「いじめ」をなくすためにできる支援とは？
ストップイットジャパンと JVPF の取り組み

- オンラインイベント開催報告 -

2022 年 2 月 2 日（水）18 時から、日本ベンチャー・フィランソロピー基金（以下、JVPF）主催で「ストップイットジャパン～『助けたい人を助けられる社会』の実現に向けて」をオンラインで開催しました。

- いじめってそもそも社会課題なの！？
- いじめをなくすためにできることは何？
- ベンチャー・フィランソロピーって何しているの？
- 社会解決型企業ってどうやって始めるの？

そんな疑問を持たれている方に、ヒントがいっぱいつまったイベントになりました。

ストップイットジャパン株式会社（以下、SIJ）は「助けたい人を助けられる社会」の実現をビジョンに掲げ、匿名アプリの相談サービスや啓発プログラムを通じ、主に小中学校におけるいじめの早期発見・早期対応の仕組みを提供しています。

第一部では、SIJ の谷山代表取締役に、いじめの問題と構造、そして一人でも多くの子どもを救うための取り組みについて語っていただきました。第二部では、JVPF より投資が決まる一年半前からの伴走支援の内容を紹介させていただいた後、第三部にて、JVPF の支援をうけたお立場から谷山氏と NPO 放課後アフタースクールの平岩代表理事でざっくばらんな意見交換をしていただきました。

アーカイブ録画を公開しておりますのでこちらから是非ご視聴ください。

<プログラム>

第一部：ストップイットジャパン活動紹介 (05:15~)
第二部：ストップイットジャパン x JVPF の協働について (37:57~)
第三部：放課後タイム：谷山氏 x 平岩氏対談 (52:30~)

＜登壇者＞

ストップイットジャパン株式会社
代表取締役
谷山 大三郎氏

特定非営利活動法人
放課後NPOアフタースクール
代表理事 平岩 国泰氏

一般社団法人
ソーシャル・インベストメント・パートナーズ
代表理事兼CEO
鈴木 栄

一般社団法人
ソーシャル・インベストメント・パートナーズ
シニア・アソシエイト
ストップイットジャパン株式会社 社外取締役
奈良 拓磨

＜運営・進行＞

一般社団法人
ソーシャル・インベストメント・パートナーズ
事務局長
福島 沙世子

イベント詳細を以下の記事でまとめております。

○第一部：ストップイットジャパン活動紹介

SIJ の活動は、1）いじめ防止啓いじめ防止啓発授業、2）匿名報告相談アプリの STOPit、3）子どもの状態把握から相談のきっかけを作る WEB アプリ、シャボテンログという 3 つの柱からなっています。谷山氏代表取締役のお話は、まず SIJ の活動を始めた理由から始まりました。

＜SIJ を立ち上げた理由＞

谷山氏は、千葉大学教育学部卒業後、リクルートで 7 年勤務し、その後千葉大学の講師・特別研究員を経て 2015 年に SIJ を立ち上げました。リクルートでは年間表彰をうけるほど活躍していたこともある谷山氏がなぜいじめという社会課題に取り組むことになったのでしょう？それには、谷山氏個人の原体験がありました。

谷山氏は小学 5 年生ころからいじめをうけるようになりました。公立学校だったこともあり、そのまま中学校でも同じメンバーからいじめを受け続けてしまいます。地元から遠い高校に通うようになってようやくいじめから解放されました。そのような**つらい思いをする子供をひとりでも減らしたいという想い**が、SIJ 立上げの原動力になっています。

当時、谷山氏はご両親には一切相談しませんでした。ご自身がいじめられている事実を伝えることが、尊敬するご両親の価値を下げることになる、という思い込みがあったそうです。一方で、ご両親の愛情や学校の先生の暖かい支援があったことが、救いになったとも考えています。また当時、他のいじめられていた子を

助けたいという気持ちがあったにもかかわらず、声をかけられなかったという苦い思い出もありました。

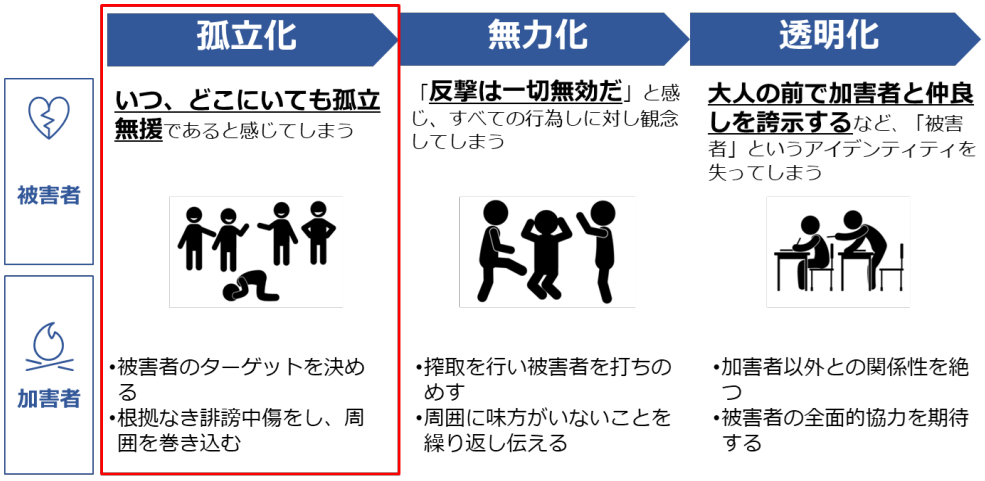
小学生時代の谷山氏

こうした経験を踏まえて、「いじめなどで困っている子どもがSOSを出しやすい社会」だけでなく、「**傷ついた人を見つけたときに手を差し伸べることができる社会**」にもしたいという想いが生まれ、活動を始めました。「**助けたい人を助けられる社会をつくる**」という SIJ のビジョンも、この想いから生まれています。

＜いじめの問題と構造＞

次に、いじめという社会課題の学術的背景についてご説明いただきました。

まず、**いじめの影響が長期にわたる、**ということです。2019 年の UNESCO の調査では、いじめと学業成績の低下に因果関係があることが報告されています。一方で、学齢期にいじめを頻繁にうけた人は、大人になってからの自殺傾向、うつ病、不安障害などの発症率がオッズ比で 1.5-2 倍前後という調査結果[*1] も発表されています。いじめの影響はその時だけではないことを考えると、**いじめの問題は学校現場だけでなく社会全体で取り組んでいくべきこと**とも言えます。



いじめ深刻化プロセス図

次にいじめは**深刻化すると発見がしづらくなる構造**であることです。いじめの深刻化のプロセスは三段階で進むといわれています（上図を参照）[*2]。最終の第三段階まで進むと、いじめの存在が大人の目からは見えなくなってしまいます。谷山氏も、当時いじめを避けるため、一日中加害者の機嫌を取る事ばかり考えていた時期があったそうです。この段階に入る前に早期に発見することが重要になります。

ところが、最近 LINE 上などで、「文脈が分かる人にしか通じない方法で巧妙にいじめる手法（ダブルバイ

ンド型など）」が出てきており、早期発見がますます難しくなっていることが、新たな問題となってきています。

＜ストップイットジャパンの活動＞

このような状況の中で、当事者以外の傍観者が介入することでいじめを軽減できるという調査結果[*3]も出てきています。**クラス内でいじめが良くないという雰囲気があれば、ネット上のいじめも減る効果がある**というものです。つまり、そうした環境づくりと**傍観者が助けやすい仕組み**づくりが有効と言えます。

SIJ では、いじめ防止啓発授業を年間約 300 回以上実施し、困った子どもを心配する雰囲気づくりをクラスの中で醸成しています。

また匿名報告相談アプリ STOPit は、当事者が相談しやすい仕組み、傍観者が SOS しやすい仕組みとなっています。最初にアプリを導入した柏市での実績（平成 29 年）によると、電話やメールによる相談が合計で 15 件に対し STOPit 経由は 133 件と約 9 倍でした。

匿名報告相談アプリ

学校配布のタブレット端末にアプリが導入された場合、**登録率は約 90%に上ります。そして登録した生徒の 50 人に 1 人が相談し、その約半数が当事者以外の傍観者**でした。実際、自殺の回避などにもつながったケースもあるとのことです。アプリは現在 28 自治体 543 校で導入されています。

谷山氏の取り組みはまだまだ続きます。一人一台端末が普及している中、子どもが端末に毎日入力することで心身の健康状況をモニタリングできるシャボテンログという WEB 健康観察アプリを開発しています。匿名報告相談アプリは、あくまで自らの置かれた状況を言語化して相談できる子どもたち向けのものです。実際には悩みを言葉にできない子どももたくさんいるので、そうした子どもを救うため第三の柱として育てていく予定です。

そのほか、元プロ野球選手の松井秀喜氏と立ち上げた「いじめ・自殺防止プロジェクト」#Stand by You をはじめ、さまざまな取組を試みています。最後に、「**理想の社会は、今、実施しているこうした活動がい**

らない社会であること、その社会を目指して今の問題解決を実施していきたい」という熱い想いを語ってくださいました。SIJ の活動説明を通して、いじめは決して当事者の問題だけでなく周りの人も含め社会全体で取り組むべき課題であることがよく伝わりました。

○第二部：ストップイットジャパン x JVPF の協働について

そんな谷山氏と SIJ を JVPF はどのように支援してきているのでしょうか。

ソーシャル・インベストメント・パートナーズ（SIP）の鈴木代表理事によると、JVPF は、中長期的な資金提供と経営支援を提供することで、社会的イノベーションを加速することを目的としています。単年度かつ事業を対象とする助成金が多い中、**JVPF は経営基盤や成長への土台をつくるための支援**を行っています。その投資・助成案件の発掘と経営支援を SIP が担っています。

JVPF が SIJ に正式に資金提供し始めたのは 4 か月前の 2021 年 9 月です。しかし、SIP はその投資がきまる 1 年半近く前から、SIJ を経営支援してきました。SIP のシニア・アソシエイトであり、SIJ 社外取締役でもある奈良拓磨氏が、この投資前の支援を説明しました。

JVPF の投資・助成の資金は寄附でなりたっているため、その投資・助成先選定は慎重に実施しています。そのために投資・助成を行うための 4 つの基準が用意されています。「経営チーム」の強さ、収益性を評価する「事業リスク」、戦略と事業モデルや事業計画の整合性を評価する「戦略と方向性」、そして社会インパクトである「事業の評価」です。

SIJ は当初より素晴らしい事業を実施していましたが、この 4 つの基準を全てクリアするためには、いくつか改善点がありました。具体的には、1）事業を推進できる経営人材の獲得（経営チーム）、2）米国へのロイヤルティ費用の軽減（事業の持続性）、3）日本の利用者のニーズに適合した機能開発（社会インパクトの拡張性）でした。その実現に向けて、SIP は経営人材の採用と、システムの内製化のプロセスの支援を実施しました。また STOPit はもともと米国のサービスのため、その使用にともないロイヤルティを支払う契約がありましたが、クリフォードチャンス法律事務所にプロボノ参加してもらい米国との契約終了も視野に入れた費用減額に向けた交渉方針の策定支援を実施いただきました。その結果、こうした 3 つの課題の解決に目途がついた段階で資金提供の決議がなされたのです。経営支援は資金提供後も続いています。

JVPF と SIP は、資金提供が始まる前から寄り添った経営支援をしながら、インパクトの拡大可能性とその実現方法を模索するのです。奈良氏は、「ベンチャー・フィランソロピーという言葉や活動がまだまだ十分知られていない中、新たな社会的リソースとしてより広く伝えていきたい」と意気込みを語りました。

○第三部：放課後タイム：谷山氏 x 平岩氏対談

最後の第三部では、放課後 NPO アフタースクールの平岩代表理事と谷山氏の対談が行われました。まず平岩氏ご自身の JVPF との関わりが紹介されました。

放課後 NPO アフタースクールが JVPF の支援を受けたのは 9 年前になります。当時も、支援　　が決まる前からの経営支援が徹底されていました。「担当された白石代表理事（当時）から毎週宿題をもらい、それに回答していく中で大きな学びがあった」と平岩氏は振り返ります。**もし助成をしてもらえなくてもこの伴走だけで価値がある**と思ったそうです。実際は、第一号案件として 2013 年から 2016 年に本格的な経営支援が行われました。**当初 3 校だったアフタースクールが 2016 年度には 15 校へ、収入も 4500 万円から 3 億 3000 万円に大きく伸びました**。その後も放課後 NPO アフタースクールは安定して成長を続けています。
谷山氏も「事業計画の作り方もわからないところから SIP の鈴木代表理事から適切な課題をもらって育ててもらった」と経営支援の効果を実感されていました。逆に、支援を受ける側も宿題に答え続けるだけの力が必要とも言えそうです。

放課後タイムの意見交換の様子

また意見交換の中で、**谷山氏のとびぬけた行動力**が明らかになりました。STOPit は、もともと米国で始まった事業です。谷山氏が千葉大学の講師として海外の教育プログラム事例を検索している時に立ち上がって間もないこのサービスを見つけました。早速 STOPit にメールを送りましたが返事は来ません。返事がくるまで 1 か月毎週メールを送り続けたそうです。その後、お盆休みを利用して直接アメリカまで会いに行かれました。松井秀喜氏との出会いも、谷山さんから松井氏の運営する NPO に直接メールを送ったのが始まりでした。その後、ニューヨークに会いに行く際も、金曜日の夜に日本を出発し、土曜の朝にはもうニューヨークを出て土日で往復したそうです。

そのほか、4 歳と 2 歳のお子さんにお弁当をつくるお話や、スイカが苦手などの谷山氏の意外な一面を知るエピソードが紹介される中、あっという間に終了時間となりました。

最後に、谷山氏の今後の抱負として、**今の取り組みをしっかり持続性のある形で社会実装をしていく**こ

と。また、いじめというとネガティブなニュースが多い中、**現場の先生が熱心に取り組んでいる姿をしっかり伝えていけるようにもなりたい**と語られました。
平岩氏から谷山氏へは、「いじめは、本当に大事な社会課題、ぜひ頑張ってほしい。活躍に期待している」というエールが送られました。

いじめという社会課題の重要性とそれに取り組む谷山氏の真摯な想いが伝わるイベントになりました。また、本イベントを通して JVPF の投資・助成の進め方について、具体的な理解を得ていただけましたら幸いです。

JVPF はこれまで合計 11 団体に対しベンチャー・フィランソロピーの手法で経営支援/資金提供実績を積み上げてきました。本手法や活動の理解を広めたいと思っており、今後も個別団体やテーマに沿ったイベントをシリーズ化していく予定です。

＜過去のイベント報告はこちら＞
第一回：オンラインイベント「チャンス・フォー・チルドレン～伴走支援の成果から考える協働の価値～」開催報告

参考文献
*1：「Adult Health Outcomes of Childhood Bullying Victimization」、Takizawa R, Maughan B & Arseneault L, 2014
*2：「いじめのある世界に生きる君たちへ　ーいじめられっ子だった精神科医の贈る言葉ー」、中井久夫 / 中央公論新社（2016 年 12 月 10 日）
*3：藤川大祐・青山郁子・五十嵐哲也（2016）「ネットいじめの芽における小中高生の傍観者行動と文脈要因の違いにおける差の検討」日本教育工学会第 32 回全国大会講演論文集：663-664

JVPF とは
日本ベンチャー・フィランソロピー基金（JVPF）は資金提供と経営支援を通じて社会的事業を行う組織の成長をサポートし、社会的インパクトを拡大する為に 2013 年に設立された国内初の本格的なベンチャー・フィランソロピー基金で、公益財団法人日本財団と一般社団法人ソーシャル・インベストメント・パートナーズ（SIP）が共同で運営にあたっています。

ベンチャー・フィランソロピーとは
ベンチャー・フィランソロピー（VP）と呼ばれるこの手法は、90 年代欧米で発祥。成功した事業家や投資家、財団などによって支援組織として作られ、単に寄付をするチャリティ活動ではなく、ビジネススキルを

適用し、支援先の社会的事業の規模を拡大し、社会的なインパクトを発揮することに、資金、時間、能力を投資します。

ストップイットジャパン株式会社（SIJ）とは
「助けたい人を助けられる社会」の実現をビジョンに掲げ、匿名アプリの相談サービスや啓発プログラムを通じ、主に小中学校におけるいじめの早期発見、早期対応の仕組みを提供しています。2021 年 9 月に JVPF との協働を開始し、複雑ないじめの構造に対応すべく、より包括的なアプローチの提供、サービス導入先の拡大を目指しています。

特定非営利活動法人 放課後 NPO アフタースクールとは
地域や企業の人材が「市民先生」としてプログラムを提供する小学校向け放課後のアフタースクールを運営しています。2013 年 12 月から 2017 年 3 月まで 1 号案件として JVPF と協働した実績があります。